

## 第 10 回 第 2 期中海自然再生協議会議事録

日時 平成 22 年 12 月 11 日（土）13：00～16：00

場所 島根県庁会議棟 2 階 第 4 会議室 （松江）

高安会長から第 9 回協議会の議事録（案）については HP に掲載していること、意見があれば事務局に連絡してほしいことが述べられ、ついで配付された図解資料（実施計画案と全体構想および協議会認証事業との関連、別紙 1）および参考資料（中海自然再生事業「中海の浅場環境の再生と肥料藻を通じた資源循環の復活」にかかわる自然再生事業実施計画案、別紙 2）についての経緯が報告され、その上で議事が行われた。

### 議事

#### 1. 中海自然再生事業実施案について

最初にアドバイザー会議の考え方が国井委員長から説明された。前回協議会では環境省の担当者からのコメントを踏まえて、作り直しをすることとなり、2 回のアドバイザー会議を経て作成された案が提案された。なお、それまでの実施計画案についてはすでに協議会で承認されたものであるもので、それぞれの計画については生きていることが述べられた。配付された図（実施計画案と全体構想および協議会認証事業との関連、参考資料、別紙 1）では、全体構想の 5 つの柱、今回提案された 4 つの実施計画案、およびすでに承認された 9 つの承認事業との相関が示されている。次いで、今回の案の作成に係わった相崎委員からは、環境省からの指摘では再生のための科学的な根拠を明確にすることが求められていることから、環境省の専門家会議にわかってもらうにはどのような生態系に戻すのかを明らかにする必要がある、全体構想で書かれている昭和 20 年代後半から 30 年代前半の、広大な藻場が広がり、魚介類のすみ場となり、魚介類が豊富であった環境が目指す姿でよいか、これが合意されるようであれば、今回の提案（参考資料、別紙 2）をもととして具体的な実施案を練り上げて行きたいとの説明がなされた。

これらを受けて活発な意見交換がなされた。まとめとしては、目指すべき姿については大よその合意が形成されており、中海の浅場環境の再生と肥料藻を通じた資源循環の復活をタイトルとして 4 つの実施計画案に再編成することについては、この方向でまとめることが全体として合意され、今後はこの実施計画案をもとに、アドバイザー会議などを通じてさらに検討を進めて行くことになった。なお、すでに協議会として承認した 9 つの事業計画については、何らかの形で公表するのが良いと意見が出され、次回に検討するこ

ととなった。協議会のあり方（スタンス）については、他の協議会での経験も踏まえた意見が出され、推進法では公共事業のなかで実施するという位置づけになっているのではないかと、公共事業に反映させるなかで住民が加わっていくという考え方を採って、実施計画はそのための青写真と考えればよいのではないかと意見が出された。これを受けて議長からは考え方として賛成であること、中海協議会についてマスコミから全体構想をまとめた意義や自然再生の目標などについて問われた経験を踏まえて考えたことの紹介があり、今後の議論の進め方に参考になればということで、文書として作成し、HPにも掲載してもらおうつもりであるとの発言があった（別紙3として添付）。さらに住民団体としてのこれまでの活動の経験を踏まえて、これまで中海が公共事業のなかでダメージを受けてきたが、再生にむけての公共事業として提案して行き、住民参加で実現していくことが重要であるとの発言があった。行政からは、これまでNPOなどからの提案方式で実施案をつくってきていて、提案者の意向が尊重されて良いこと、協議会では大まかな方向を確認して、その上で具体化していくこと、アドバイザー会議でもこのように考えてやっていきたいとの意見がのべられた。最後に議長から今回の討議を踏まえて、4つの実施計画案をもとにして検討を進めていくこと、今年度環境省の委託事業として「地域生物多様性保全活動支援事業（中海自然再生）」（委託先はNPO法人自然再生センター）においても自然再生実施計画作成を課題としているので、この事業の中でもあわせて検討がすすめられて行く、とのまとめがなされた。

## 2. 3 期中海自然再生協議会公募委員の公募について

平成23年3月で今期の委員の任期が終了となることから、次期の公募について各行政の広報誌に掲載をこれから依頼すること、現在の公募委員および関心をもっている方々に応募してほしいことが事務局から報告され、了承された。なお、来期に向けてのこととして、他の協議会の例をみると、協議会としての活動報告や年次報告、行動計画をまとめて公表しているところがあることから、今後の協議会の方向性について、これまでに策定した9つの実施計画の何らかの形での公表、一般からの募金や企業からの寄付、等々について、協議会として、今後どのような方向で、何をやって行くのか、討議の機会をもってはどうかとの提案があった。

## 報告

- ・ 次回の協議会は平成23年2月19日（土）13:00～16:00  
島根県庁会議棟 2階（米子、西部総合事務所は現在改装中のため、前回

に引き続いて松江での開催となります。)

- 中海自然再生マップ及び解説書について、平成 22 年度中海の自然再生に関する普及啓発等業務（環境省から NPO 法人自然際センターが委託した事業）で中海自然再生協議会として出版、1000 部印刷され、配布、好評を獲ていることが報告された。
- その他の報告として、國井専務理事から地人書館から「自然再生ハンドブック」が出版され著者割で購入できること、野村律夫島根大学教授から国土交通省出雲河川事務所の八尋鼻観測所を借りての湖底ビデオ撮影データをネットで常時放映しているので利用してほしいこと、相崎守弘島根大学名誉教授から来年 1 月 8 日に汽水域研究会主催シンポジウム「宍道湖で何がおきているのか？」が開催されること、環境省米子自然環境事務所の角 智則自然保護官から安来市で発生した鳥インフルエンザ問題についての近況の報告などがあった。(15 : 20 終了)

(以上)

#### 配布参考資料

(別紙 1)

(別紙 2)

(別紙 3)